

どう考える？

## 雨水の再利用

(リベラル西条)

### 問

近年、世界規模で地球温暖化対策のため「水を大切にしましょう」ということが提唱されている。その中で、雨水は貴重な水資源であり、例えば公民館など公共施設に貯水タンクを設置することで、溜まった水をトイレの浄化水や樹木への散水などの雑用水として、また、災害時の緊急対策用水として活用することができるといえる。

雨水タンクは、まちの中の小さなダムとなり、かつ有効利用すれば節水にもつながる。この身近な水源と言われる雨水の再利用について、市は、どう考えているか。



西消防署内の地下にある雨水タンク

### 答

雨水は、地下水のかん養にも重要な役割を果たしており、溜めた雨水を散水やトイレ用水として使用することで節水効果を得ることができる。

現在、西条市では、西消防署に320立方メートルの雨水タンク1基を設置しているが、雨水の再利用については、水供給能力が不足する地域や、災害時等により水供給が停止する可能性のある施設及び地域においては、有効な水資源の確保の一手段であると考えている。

現時点では、市民全体の安心・安全な水供給システム構築の中で費用対効果や、施設及び地域特性を検討しながら導入について検討すべき方向にあり、公共施設全体に雨水タンクを設置するというところまでは考えていない。

## どう取り組む！ 急がれる経済・雇用対策

(公明党西条市議団)

### 問

政府は、新たな追加経済対策となる歳出総額13兆9千300億円という過去最大規模の補正予算を5月末に成立し、緊急人材育成就業支援事業に700

億円を盛り込むなど、地方の経済対策への力量が発揮できるものと期待をしている。

県内の有効求人倍率は0.53倍と9か月連続での悪化を示しており、当市も有効求人倍率0.5倍を示し、依然厳しい状況が続いており、雇用調整助成金の助成率の拡充や、当市も緊急雇用創出事業として基金を積み、雇用対策と就業の創出を進めているが、市内企業における雇用対策の現状とその効果を問う。

### 答

去る5月11日の臨時会で議決された緊急雇用創出事業は、34事業、総事業費6千730万1千円、雇用創出目標108人、ふるさと雇用再生事業は、8事業、総事業費1億1千73万9千円、雇用創出目標20人である。現在の進捗よく状況は、市の直接雇用に関する事業は、定数を上回る応募があり、面接などにより今後採用を決定していきたい。

また、国の雇用調整助成金は、企業における雇用維持対策の柱として、さらなる充実が図られている。運用の状況は、4月末で、全国で約6万1千社、対象者は253万人、愛媛県では、4月末

で234社が利用し、対象者が約7千人と言われている。本市は、100社余りが利用していると推測しており、雇用調整助成金は、一定の成果があると見ている。

## 校庭や公園などの 芝生化は？

(公明党西条市議団)

### 問

近年、校庭の芝生化が進み、文部科学省も、教育上の効果や、砂じんの飛散防止、降雨時の土砂の流出防止、夏季の気温上昇の抑制など環境保全上の効果を上げて整備推進を図っている。

愛媛県内では、西予市の野村中学校で、苗代が安く特別な土壌改良も必要なく、維持管理も簡単な鳥取方式と言われるポット苗移植法を採用して、グラウンドの芝生化計画に取り組んでいる。

本市においても鳥取方式による公立小・中学校や幼稚園・保育園などの芝生化を実施する考えはないのか。

### 答

芝生化のメリットは、安全性の向上による屋外運動の促進、温度上昇の抑制によ



築山で遊ぶ園児

る快適性の向上、砂じん飛散や土の流出の防止などがある。また、鳥取方式では、従来に比べて低コストで維持費も抑えられる。しかし、初期投資が1千平方メートル当たり約50万円で、維持管理費や、衛生面の課題もあると聞いている。

現場からは、幼児期の児童の成長には、土の園庭がより好ましい影響を与えるとの声や、小・中学校では、維持管理費用、労力、危険物の混入対応、かん水の問題、さらには、運動や遊びが制限され、危険回避能力が不足してくるとの声もあり、現在、芝生化については実施する考えはない。